2014年6月1日

中国人民解放軍従軍記（2）

水野正昭

中文会　三堀会長、若松副会長などの要請により、6月1日の第218回例会で、

私が中国人民解放軍従軍記を発表することになりました。

（目　次）

1、出生から学校卒業まで

2、大陸満州で就職、貿易を夢見る

3、中国人民解放軍に参加

4、軍国少年から共産主義信奉者へ変身（日僑労農学校学生、中国人民解放軍、八路軍兵士）

5、北京郊外日本共産党党学校学生を命ぜられる

6、上海市対外貿易委員会の管轄下にある国営の中国絲綢（生糸、絹織物）進出口（輸出、輸入）公司、上海分公司に就職

7、故郷日本へ帰国、就職と活動

（まとめ）

中国共産党が指導する中国人民解放軍の強さの秘密
——質量両面からの分析——

（あとがき）

現在の世界情勢　———米中軍事力、総合力の比較———

以上

1、出生から学校卒業まで

1927年、石川県金沢市郊外の農村で出生

金沢市の6年制尋常小学校、5年制の商業学校卒業、

1944年、満州国際運輸株式会社安東支店労務課（現、遼寧省、丹東市）

1945年、日本敗戦。

1946年、中国遼寧省丹東市で日僑労農学校入学、

1946年、同校が黒龍江省　ハルピンへ移動、自然に八路軍に参加

1946年、中国人民解放軍航空学校政治部日工科文書
（黒竜江省牡丹江、密山、）
1946年、中国人民解放軍総後勤部政治部民族科民族幹事（黒竜江省
佳木斯市、チャムス市）
1948年、中国人民解放軍衛生部政治部民族科民族幹事、
ハルピン陸軍 衛戍病院政治処民族幹事
1949年、中国人民解放軍東北軍区衛生部第33後方病院（吉林省柳河）
政治処民族幹事
1952年、中国人民解放軍華北軍区衛生部第2後方病院（河北省通州市）
政治処民族幹事
1953年、 北京西郊外の人民大学第一分院　学生

1956年、上海絲綢進出口公司行情研究室（マーケット・リサーチ）研究員

1958年、天津から白山丸で引き揚げ

1960年、日商岩井株式会社　中国貿易部中国課課員、課長代理、課長

1985年、日中機械技術開発株式会社　取締役

1987年、新潟貿易株式会社　専務取締役

1990年、日中経済技術協会　会長

2002年、日中経済文化協会　代表

2005年、椰子の実会（八四戦友会）の活動開始

2、大陸満州で就職、貿易を夢見る

中国遼寧省丹東市（旧安東市）国際運輸株式会社入社

※国際運輸の説明

3、関東軍に入隊、直後、敗戦を聞く
――敗戦後の大陸の生活――

※1945年8月、中国吉林省通化市の関東軍部隊に入隊、即時解散。

※もと来た道を鉄道で沈陽の南、蘇家屯（貨物駅）の国際運輸社宅で一泊

※翌日、鉄道で丹東に戻り、独身寮に帰着。

※丹東市の国際運輸の独身寮の生活

※当時のソ連軍、国民党軍、八路軍の状態

※中国共産党、八路軍（中国人民解放軍）の三大規律八項注意

本文末尾の参考資料：1、中国人民解放軍三大規律八項注意を参照。

※国民党の統治との比較

4、軍国少年から共産主義信奉者へ変身
日僑労農学校学生、中国人民解放軍（八路）兵士

※日僑労農学校へ入学、日僑労農学校学生のメーデー・デモ行進

赤旗の歌

…… （一）民主の旗、赤旗は、戦士の屍（かばね）を包む
死屍（しかばね）硬く、冷えぬ間に、血潮は、旗を染めぬ
高く立て赤旗を、その影に死を誓う
卑怯者去らば去れ、我等は、赤旗守る
〈二）フランス人の愛する旗の光、ドイツ人は、この歌、唄う
モスコー伽藍に歌響き、シカゴに歌声高し
高く立て赤旗を、その影に死を誓う
卑怯者去らば去れ、我等は、赤旗守る ……

※丹東日僑労農学校の生活

※丹東労農学校の北満ハルピン向けの移動
抗日聯軍司令の死、胃に草木痕跡。

※道中、われわれに、たまたま、途中、同行の八路軍の或る中隊の
文化教員がタクトをとって“八路軍軍歌”の指導。

八路軍軍歌

铁流两万五千里, 走上着一个坚定的方向,
苦斗十年锻练成一支, 不可戦勝的力量,
一旦強寇邊疆，慷概悲歌奔上戰場，
首戰平型関威鳴天響揚，首戰平型関威鳴天響揚，
嘿！游擊戰敵後方剷除偽政權，游擊戰敵後方堅持反掃蕩，
鋼刀插在敵胸膛，鋼刀插在敵胸膛，巍峨長白山塌塌鴨綠江，
收復失地除強椋，爭民族獨立，求人類解放，
這偉大的重大責任，都擔在我們的雙肩。

次に、日本の中国侵略後、抗日のために、江西省の山奥にいた労農赤軍が、それぞれ名前を変えて、八路軍、新四軍となり、国民党軍などと民族統一戦線が結成された。 その新四軍軍歌を紹介する……

新四軍軍歌

光榮北伐武昌城下，血染着我們的姓名，孤軍奮鬥箋肖山上，
繼承了先烈的塑勛，千百次抗爭風雪飢寒，千万里轉戰窮山野營，
獲得豐富的戰爭經驗，鍛煉艱苦的犧牲精神，為了社會幸福，
為了民族生存，一貫堅持我們的鬥爭，八省健兒匯成一道鋼鐵的紀律，
八省健兒匯成一道鋼鐵的紀律，
東進！東進！我們是鉄的新四軍！
東進！東進！我們是鉄的新四軍！

この2つの軍歌は、初戦の平型関勝利で、気勢を上げ、失地回復、民族独立と人類解放の理想を歌っていることに、非常な感動を覚えた。この時は、「新四軍軍歌」は、まだ、知らなかったが、1956年、上海の中国丝绸进出口公司に勤務している時、同室の中国人友人から教わった。有名な話だが、平型関の戦闘で指揮官の林彪が負傷し、ソ連で病気治療後、1945年9月から46年末の間に、国民党との内戦を見越して、中国共産党中央委員会は、林彪を東北民主聯軍総司令と第四野戦軍（中国東北地方）司令員（共産党指導の軍隊には、司令官が居なく、司令員）に任命した。

※丹東出発、鳳凰城、灌水（淮甸）、恒仁、経由通化へ

我々は、丹東から通化に向けて移動、行軍中、夜中に大雨のため、通化から来たトラックが山間の舗装された道路を進行したとき、突如、道が崩れ、谷川に、車もろとも横転、そんなに深くない谷底に、二回転しながら落下。 米が入った麻袋と東北人民券（紙幣）の袋の下に、若い女性と銀行職員数名が死体となって救出された。運転手は、顔、体の打撲で横たわっていた。 われわれも駆け下りて救助にあたり、強心剤を打ったが駄目。お米と金を持って冥土へ行けたから、以って瞑すべしと誰かが洒落にもならぬことを云ったが……。

通化市では、杉本一夫（本名、前田光繁）さんがわれわれを歓迎、大宴会が開かれ、中国共産党のバックアップがあることを見せ付けられた。

※吉林省通化市から徒歩で長白山を右に見ながら森林、平原地帯に入り、撫松、延吉、牡丹江、一面坡、阿城経由ハルピンへ徒歩行軍と有蓋貨物鉄道で移動。

※撫松の町の十字路で見た長白虎の死体

通化市を出て、平原と森林を交互に見ながら行き、撫松の町を過ぎる頃、ある村に入った。村の十字路の真ん中に、長白山虎が俯けに横たわっている。

相当広い道をふさいでいるくらいの大きさだった。多くの農民が虎を囲んでしゃべっていた。聞く所では、虎の毛皮は、有名で、捨てるところ無く、骨も虎骨酒になる。長白山虎は、世界で最大だと。

我等は、大河の川辺の延吉市に入り、鉄道で、牡丹江を経て、ハルピンに到着。

丁度、その頃（1946年9月）のハルピンは、日本人の引き揚げが始まっていた。

その大仕事は、後日、和田真一さんから聞いた話だが、最高責任者は、当時、ハルピンに、ソ連からロシア人の夫人とともに、帰ってきた李立三（当時、中共中央委員会東北局）が担当された。それで、和田さんたちは、李立三と何回も会い、日本人の引き揚げを相談したと。或る時、李立三さんと話し合いをしている時、日本側の誰かの発言が、彼には、判らなかったらしく、『什么?』と、額に縦皺を寄せて、問い返した。日本人幹部達は、『何しろ李立三コースだからな！』（中共党史によると、当時、瑞金に首都を置いていたソビエット政権は、左翼極左、冒険主義的軍事上の誤りを犯した。その代表的なものが李立三だと述べている）と恨みごとを言って陰で批判を行なった。

この時（1947年9月末）、国共両党は、第二松花江を、はさんで停戦協定中。

丹東から来た労農学校の生徒は、全員帰国。

※正式に中国人民解放軍航空学校政治部日工科文書を任命される。

私は、和田真一さんの説得で残され、彼と一緒に、牡丹江の航空学校（71部隊と通称）（林弥一郎少佐の日本陸軍航空部隊がそのまま、八路軍に参加）に行き、政治部日工科文書（日本語訳：日本人工作科書記）の任についた。 日工科、科長は、和田真一。後で判ったが、通化から杉本一夫さんが来るまでとの約束があった模様。それ故、杉本一夫さんが牡丹江、実際は、更に、ソ連に近い、東安（黒竜江省密山）に来て、そこで、バトン・タッチが完了したので、和田さんと私が黒竜江省チャムス市の総後勤部総政治部民族科に移動した。

※チャムス市での生活

チャムスの町の目抜き道路の電柱に、謝文東なる匪賊の首領の首が吊るされており、当地の新聞「東北日報」によると、悪逆非道な謝賊を銃殺、見せしめにしたと。

このようにして、私自身、何の自覚も無いうちに、自然なうちに、中国人民解放軍に参軍していた。待遇は、俳長（小隊長クラスの幹部）、科長は、営長（大隊長クラスの幹部（和田真一科長）で、食事も営長から旅団長クラスまでは、中灶（日本語訳：中クラスの食事。因みに、小灶は、師団長クラス以上。大灶は、連長（中隊長）以下の俳長、下士官、兵の食事。）

1946年～48年当時の佳木斯（チャムス）は、第4野戦軍 林彪司令、中共中央東北局、新華社〈通信社〉など党政重要機関が一時、疎開していた。近所には、同じく、

長春から来た旧満州国造幣局の紙幣印刷の技術者も数名、家族を連れていた。

私達は、そこで、長春から来た菅沼不二夫（元上海共同通信社駐在員）グループと一緒になり、民主新聞を発行。

民主新聞は後に、瀋陽に移動、日本人の機関紙となる。菅沼氏は、帰国後、日中旅行社社長。

その頃、チャムスには、エスペラント語の小説家、長谷川テル（緑川英子）、劉仁夫妻も重慶から移住しており、私が丹東で日僑労農学校に入った当時、”岐路上に立つ日本”と言う激烈なアジテーターとしての本を重慶で出版していた。

その彼女がこの地で病没。既に、土饅頭で葬られていた。

巻末の参考資料として、”中国の緑の星” 長谷川テル（緑川英子）反戦の生涯

著者　高杉一郎　朝日選書　169　1980年11月20日　第1刷発行を掲載し、

案内しました。ご参照下さい。

※ハルピンへ移動

1947年10月、私は、衛生部政治部民族科に転勤を命ぜられハルピンに到着。

直ちに、ハルピン衛戍病院政治処民族幹事に派遣された。

1948年9月から48年9月までの約1年半の間、私は、ハルピン衛戍病院政治処の民族幹事。この病院は、元満州国赤十字病院。10名の博士号を持つ日本人医師が常勤。例えば、竹崎外科医師は、虫垂炎手術の名手、僅か2，3分の時間で患者を開腹せず、ピンセットを下腹部に差し込み、2、3回上下して、虫様突

起を挟みだし、後は、絆創膏を貼って、手術完了。

　または、大連からソ連海軍潜水艦で朝鮮海峡を秘密裏に潜水行して、ウラジオストックに来、更に、国境、綏芬河を越えハルピンに来た森本耳鼻科医師など高名な博士多数がいたので、中国よりソ連に病気治療、又は、休養を終えて帰国した幹部要人が多数検査入院した。例えば、毛沢東の2番目の夫人　蘇子青など。このことからして、当時の政府がこの病院を非常に重視していたかが判る。中央委員の大幹部も匿名で検査入院してたらしい。

　私は、この病院で、政治幹事として、毎晩、日本人医師、看護婦、雑役夫など、約80名を集め、当時の政治情勢、戦局、当病院の任務などを話した。

※柳河時代（東北3省、黒竜江省、吉林省、遼寧省での解放戦争の最終段階）

　戦評と衛評（戦闘作戦評論と戦傷治療評論）

※沈陽に移動

1948年11月1日、瀋陽解放、入城の第1日目、私は、既に、ハルピン衛戍病院から東北軍区衛生部政治部民族科に転勤していたが、早速、国民党が満州国から接収した武田製薬会社（瀋陽市鉄西地区の工場を含む）に軍事代表として派遣された。

※吉林省柳河へ　同年末、私は、吉林省柳河の第33後方病院の民族幹事になり、

　三反五反運動（注：中国共産党指導の政府機関、解放軍機関内の教育、粛清運動。三反五反運動とは、政府機関、団体、企業、軍隊などの内部で行なう粛清運動で財政上の汚職摘発が主目的。）などを展開、学習を進めた。1951年9月25日の抗米援朝の前日、北京からの電報で外国籍の人は急遽、北京に来るよう命ぜられる。

※北京郊外通州市へ

そこで、北京近郊の通州の河北軍区第2後方病院に移動、民族幹事の任に就いた。柳河からは、多数の日本籍医務人員を私が引率した。

1953年通州第2後方病院の日本人医務人員の大多数は、日本に帰国。

5、北京郊外日本共産党党学校学生を命ぜられる

1953年秋、私は、命を受け、新築の北京人民大学第一分院へ入校した。私と同様な、元中国で解放戦争を戦った日本人が多数集まってきた。校長は、文山（本名、高倉テル、日本共産党中央委員、小説”箱根風雲麓など）明らかに偽名だが、日本共産党幹部であることは、確かだ。学校の教職員、学生は、全て、本名を使わず、偽名を使うように命ぜられた。

学習内容は、1、政治経済学　当初は、ソ連より派遣されたマルクス主義経済学（ソ連から派遣されたチチコフ教授、通訳は、ハルピン学院卒の日本人、名前を失念）の講義。2、中国革命問題（中国共産党から派遣された講師、通訳、助教（後日、高崎達之助、廖承志のLT貿易で日本に派遣された孫平化代表の随員、許宗茂氏など）　辛亥革命以降の、中国革命の歴史、毛沢東選集を中心に講義。

一般学生は、3個中隊に編成され、1個中隊は、約、10個班位、1個班は、約10人で組織され、班長は、学習委員を兼ねる。

一般学生の外に、翻訳者と通訳を養成する中国語班とロシア語班の2班があった。私は、中国語班に入った。発音基礎から文法、更に、文学作品の翻訳、通訳実習。この学校は、元々日本共産党の軍事革命路線の幹部養成を目的に作られた学校。中国共産党は、中国語班の主任に、王暁雲（後に、日本駐在大使館公使）（裏で

は、中共中央委員会の趙安博が指図）を派遣。

しかし、徳田球一委員長の北京客死と日共の路線変更（軍事路線から議会制民主主義で多数をとる）により、上記のような学習内容になったと私が考えた。

ある日、私たちは、中国民間文学、小説家　趙樹理の作品 「小児黒の結婚」を上演した。

舞台は、抗日戦争時の山西省農村の出来事。 村の廟を取り仕切る“三仙姑”は、夫不詳の娘を産み、娘は美人に成長。許婚の村の青年は、八路軍に参軍、一時、村を出て山に入り、侵入してきた日本軍と対峙後、八路軍が村を解放して目出度く二人は、結婚するというストーリ。 私が舞台監督を務めた。

約3年の学習を終え、1956年3月上海対外貿易局管轄下の国営貿易会社、上海丝绸進出口（輸入、輸出）公司に就職。

※上海時代

1958年5月以降、全員帰国となった。

学生達は、各自の故郷に帰り、それぞれ職に就いたり、日共に入党したりした。

6、故郷日本へ帰国、就職と活動

私は、1960年3月、大手商社に就職し、中国との輸出、輸入の貿易業務に、13年間携わり、中国各地へ出張。その中で、最も大きなものは、帝人のポリエステル製造プラントを、上海郊外、金山衛に、3年の歳月を費やして、完成。これは、

中国が初めて、導入した合成繊維のプラント。

その後、私は、小林寛澄会長の「椰子の実会」（抗日戦争時に組織された日本人反戦同盟の組織。八路軍の八は、日本語読みでは椰（や）、子は、四（し）。「八四（はちよん）戦友会」とも言う）に参加し、活動中、現在に至っています。

（まとめ）中国人民解放軍の強さの秘密
------質量両面からの分析-----

①強い軍隊を持つものが時の政権を奪取し、天下を支配してきた中国5千年の「改朝換代」の歴史から見ることが出来る。（毛沢東選集第1巻 中国社会各階級の分析、中国の赤色政権が何故存在出来たのか？又は彼の哲学的著作、実践論、矛盾論のなかで取り上げた中国共産党の軍事重視の実例を参照）

②中国人民解放軍の体制制度、（指揮は、司令員よりも政治委員が全部掌握、××（数字、例えば、38）軍、師団、旅団、中隊、小隊、班ごとに、中国共産党から派遣された政治部、政治処に政治委員、主任が常駐。旅団級以上が組織科、防衛科、宣伝科などを設け、師団以下の組織、例えば、旅団には、股を設ける。私は、宣伝科のなかに入ったり、単独で直接、政治委員の指揮下に入ったり。また、旅団以上は、文工団（所謂、劇団で京劇、皮影戏の上映、歌唱指導、文盲に漢字を教える）を設けることが出来る。

③軍隊生活には、作戦が終わった後、長期休息にはいると、内部の粛清（反革命鎮圧、三反五反運動）、訴苦運動（貧農出身者などによる苦しみを

訴えさせて階級教育をし、お互いの欠陥を批判しあって異分子を摘発、志気を高める内部教育、または、「言者無罪、聞者足戒」が叫ばれる整風運動などで幹部の解任、抜擢を行ない軍隊の強化を計る運動が時々展開された。

以上3点が考えられると思う。この三点は、中国共産党が強調していることは、大衆路線、群集路線を歩むと言う大原則と理解しています。これさえ守れば、一時、党が誤りを犯しても大衆から離れずに、また、元の地位に戻ることが出来ると言うことである。

（あとがき） 現在の世界情勢――米中軍事力と総合力の比較――

ａ．中国人民解放軍		ａ．アメリカ軍	
☆陸軍		☆陸軍	
兵力	１６０万人	兵力	５８万人
戦車	６，８４０両	戦車	２，３３８両
☆海軍		☆海軍	
兵力	２３万５，０００人	兵力	３２万７，２００人
空母	１隻	空母	１１隻
戦略ミサイル原潜	４隻	戦略ミサイル原潜	１４隻
その他の潜水艦	６６隻	その他の潜水艦	５８隻
駆逐艦・フリゲート艦	６９隻	巡洋艦・駆逐艦など	９７隻
☆空軍		☆空軍	
兵力	３９万８，０００人	兵力	３３万７，２００人
航空機	２，１９３機	航空機	１，４３８機
		☆海兵隊	
		兵力	１９万９，３５０人
		戦車	４４７両
		航空機	３９４機
		沿岸警備隊	４万１，２００人

b. 国防予算〈1元＝16．6円　１$＝103．00〉

中国　7,000億元＝11兆6,200億円　アメリカ　$6,000億＝61兆8,000億円

c．中国、ロシア対日米＋イギリス、フランス、ドイツなど欧州数カ国が戦うことが考えられるが、中近東は、反米。北、中、南米諸国は、アメリカに追随と中立が半々。また、戦争は、それぞれの地域で、短い期間（1，2年間）になろう。

日中戦争は、互いに、見合って牽制しあうだけで、戦争には、至らないだろう。

マルクス主義経済学の見直し論争が引き続き行なわれるだろう。

最近、私は、友人の勧めで、『亡命者　白鳥警部射殺事件の闇』、後藤篤志著、筑摩書房　2013年9月10日　初版第1冊発行　を見てびっくり、私の過去を猛省、180度の転換を決意、米中両立、世界平和発展の道を行くよう努力する心算です。

以上

参考資料：

1、中国人民解放軍三大規律八項注意について

解放軍の伝統的な優れた規律；1947年10月10日人民解放軍総司令部が公布したが実際は、1912年中国共産党創立後の労農ソビエット政権（首都　瑞金、江西省）の軍隊の規律として歌われてきた。

三大規律とは：

1）一切の行動は指揮に従う、

2）大衆のものは針一本、糸一筋も取らない、

3）いっさいの捕獲品は公の物とする、

八項注意とは:

1）言葉遣いは穏やかに、

2）売買は公正の値段で、

3）借りたものは返す、

4）壊したものは弁償する、

5）人を殴ったり、ののしったりしない、

6）農作物を荒らさない、

7）婦人をからかわない、

8）捕虜をいじめない。

2、八路軍の日本兵たち　日本労農学校の記録　香川孝志、前田光繁　共著

3、中国の緑の星　長谷川テル反戦の生涯　高杉一郎著

4、亡命者――白鳥警部射殺事件の闇――後藤篤志　著　筑摩書房は、

すでに、本稿、18頁冒頭で、参考資料として提供済み。

以上